

子宮内膜刺激術（SEET 法）

SEET法とは培養液中の胚由来の因子や着床継続を促す情報伝達物質により子宮内膜を刺激し、胚が着床するための準備を胚移植の前に促す方法です。

着床不全の原因のひとつに受精卵と子宮内膜の反応不全があります。最近の研究では着床準備のためには、受精卵からのシグナル（胚因子）が必要であり、それと同調し子宮内膜は着床環境を整えている（Implantation windowを開く）と考えられています。

胚盤胞移植単独ではそのシグナルを送るタイミングがないため着床不全の原因の1つになると言えます。

採卵の周期は全胚凍結をします。その際に凍結できた胚の培養液も凍結します。次周期に凍結した自身の培養液を胚移植数日前に子宮に注入し、胚移植を行います。



自身の胚培養に使用した胚因子を含む胚培養液を使用する

「子宮内膜刺激 SEET 法」 を行っています。